

厚生労働科学研究費補助金
エイズ対策研究事業

“性感染症としての HIV 感染” 予防のための市民啓発を、
各種情報メディアを通して具体的に実施実行する研究計画

平成 14 年度 総括・分担研究報告書

主任研究者 熊本 悦明

平成 15 (2003) 年 3 月

目 次

I. 総括研究報告

- “性感染症としての HIV 感染” 予防のための市民啓発を、各種情報メディア
を通して具体的に実施実行する研究計画 ----- 3
熊本悦明
- (資料) 1. 図 (1) HIV 感染者数・性器クラミジア・淋菌感染症罹患率と
コンドーム出荷数の年次推移 ----- 11
2. 雑誌「Cawaii!」、他新聞・雑誌掲載記事 ----- 12

II. 分担研究報告

1. 若者のセーフター・セックスに関するセルフ・エフィカシーと VTR の影響
の研究 ----- 35
野々山未希子, 他
- (資料) 1. 表. スケール評価, 介入前後の評価 ----- 38
2. アンケートの概要 ----- 39
3. 野々山未希子, 他: 一般雑誌における性関連記事の若者への影響と
若者のニーズ (第 2 報), 日本性感染症学会誌, Vol.13, No.1: 75-80,
2002 年 7 月 ----- 40
2. 無症候クラミジア感染の実態調査 ----- 46
今井博久
- (資料) クラミジア感染実態調査分析結果グラフ・表 ----- 50

III. 研究成果の刊行に関する一覧表 ----- 57

IV. 研究成果の刊行物・別刷 ----- 61

1. この性感染症流行の現状を直視して欲しい. 日本性感染症学会誌, 13 (1);
14-15, 2002. ----- 63
2. 正しい性教育には正しいデータを、保健体育ジャーナル第 63 号; 1-2, 2002. --- 70
3. 性のあるところに感染あり 性感染症/エイズは増えている、メディコピア
第 43 号; 21-35, 2002. ----- 72

4. 中学・高校における性教育を見直すときが来ている－生徒たちの性の実態を直視しなければならない－、保健体育ジャーナル第 65 号；5-12, 2003. ----- 88
5. 最近の若者の性や AV の問題について－俳優加藤鷹との炉辺談話. 性と健康, No.2：21-27, 2002. ----- 96

V. エイズ対策研究推進事業

- 研究成果等普及啓発事業（鹿児島、福井の STD/HIV 市民公開講座結果報告）----- 105

I. 総括研究報告

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
総括研究報告書

“性感染症としての HIV 感染” 予防のための市民啓発を、
各種情報メディアを通して具体的に実施実行する研究計画

主任研究者 熊本 悦明 （財）性の健康医学財団 名誉会頭

研究要旨

わが国のエイズ/HIV 感染は、若者を中心に最近性感染症として市民の中に広がり始めており、東京都などでは毎日 1 人の HIV 感染報告例が出始めている。その HIV 感染の広がりを助長するものとして、その裏にクラミジアや淋菌の性感染症が増加しており、その流行の広がりが性感染症としての HIV 感染例を増加させていることが明らかになっている。しかも、さらにその裏に若者の性の自由化・多様化にも拘らず、感染予防に必須であるはずのコンドーム出荷量が激減している。

性感染症疫学研究の専門家的立場からすれば、この状態は極めて危機的情況にあると感じられるが、社会的にも医学界でも、また衛生行政分野でも、あまりこの問題に切迫感を持っていない。

そのわが国の HIV/性感染症流行に対する“平和呆け的感覚”の裏にあるものは何か、その改善は如何にすれば可能であるかなどを研究すべく、具体的なデータが作れるクラミジア感染症を中心に、検討を行った。

感染症に対する知識の乏しい一般市民へ、この危機的性感染流行をはっきり認知させ、予防行動をとるべく啓蒙をするのは、現状では情報メディアの活動が鍵となるわけで、その情報メディアの関心の持ち方やそれへの情報の提供の仕方が問題となる。その点の分析と共に、性感染症の流行の実態やその流行を強めている要因などについて可能な限り検討した。本年度は、① [情報メディアでの啓発活動とその効果]、② [ホームページや公開講座を通じての一般市民へのアプローチの反応調査]、③ [高校・大学生の性意識の程度と啓発効果]、④ [若者のコンドーム使用率とクラミジア感染率]、⑤ [コンドーム研究会によるコンドーム問題の検討] のテーマで検討した。

結果として、若者の情報ツールとして携帯電話の重要性、および若者の要求に応える形での情報の流し方の重要性が示唆された。一方、若者の性感染症予防意識、避妊意識は低く、コンドームの不完全な使用情況が明らかになり、実際的なコンドーム使用啓発教育の必要性が示唆された。また、コンドーム使用率の低さの要因として、エイズ/性感染症への関心の低さとコンドームのサイズの問題が指摘された。

分担研究者：

堀口 雅子（性と健康を考える女性専門家の会 会長）
野々山未希子（国立国際医療センター 患者支援調整官）
島崎 継雄（日本性科学情報センター 所長）
加藤 貴彦（宮崎医科大学 教授）
今井 博久（宮崎医科大学 講師）
齋藤 益子（東邦大学医学部 教授）
松田 静治（江東病院 顧問）

A. 研究目的

わが国でのエイズ／HIV 感染は、今や完全に性感染症として広がっていることは、改めて説明するまでもないところである。しかも、そのエイズ／HIV 感染の拡大を助長するとされている従来の性感染症、ことに無症候性感染の傾向の強い性器クラミジア感染症の流行度は極めて著しく、性生活を持つ人々の生活環境汚染的大流行となりつつある。今やわが国に 110 万人余の感染例の存在が推定されるまでになっている。また、その他の性感染症も同様に無症候化傾向が強くなりつつある。今まで臨床症状が強くとされていた淋菌感染症も、無症候化しつつ、ひそかに若い女性層に広がり、それを反映して若者の性の自由化・多様化が追い風となって、そのひそかな一般人口への浸透は、目を見張るものがある。そして、それに、今まで比較的年齢の高い感染例が多かったエイズ／HIV 感染も便乗して、徐々に若者の中に広がり始めていることが憂慮されている。

ところが、薬害エイズ問題の論議が下火となるにつれ、一般の人々のエイズ／HIV 感染への関心は低下の一途をたどり、性感染症／HIV 感染への危機感は極めて薄くなっているのが現状と言える。

そのような性感染症／HIV 感染への関心、警戒心の低さを改めさせ、具体的に積極的な感

染予防行動を行うべく自己防御意識の啓発を行うことが、今や、極めて重要な公衆衛生的問題となって来ている。

その一般の市民、ことに若者グループの性感染症／HIV 感染への問題意識を醸成するには、どのような情報を、どのような形で流すべきか、また、それが具体的かつ積極的な予防行動に現実結びつけられるか、そして実際のクラミジア感染率とどのような関連性を持つかを早急に検討する必要がある。

ところが、現在の大方の予防啓発のあり方や効果の検討は、どちらかといえば感染リスクの高いグループを対象としたものが多く、一般市民や通常若者たちに対する積極的なアプローチの検討は比較的楽観視されている。

今や通常の一般市民への性感染症／HIV 感染浸透の可能性が高くなりつつあるにも拘らず、その啓発活動はあまり積極的に行われておらず、そのため、最近一般市民の性感染症／HIV 感染への関心は低く、殆どの人には無関係の問題と思っている。しかし、現実には隠れたひそかな流行が市民の中に広がりつつある。そのため、その性感染症／エイズに対する危険問題意識を如何に高めるかが、今やわが国の公衆衛生行政上の極めて最重要課題となって来ているとあって過言ではない。

そこで我々は、一般市民や通常の若者に焦点

を合わせた啓発に力点をおいてエイズ／性感染症情報のメディアへの提供の仕方、また、その啓発効果、ことに具体的にどのようにコンドーム使用や性感染症罹患率に影響していくかの検討を行った。

B. 研究方法

1) [情報メディアへのエイズ／STD 情報提供と記事化啓発とその効果分析]

可能な限り、新聞・雑誌記者へのアプローチとして、当初試みた公開講座等でのジャーナリストを集めた啓発活動も、集まり方も悪く、具体的な成果があまり上がらなかった。そこで、主として個々の機関のジャーナリストへの直接的なアプローチで情報メディアでの性感染症問題の記事化への試みを行った。

また、同時に若者向けジャーナル（主婦の友社・Cawaii!：10代後半の女性をターゲットとしたファッション雑誌）に啓発記事を載せてその掲載情報記事への読者の反応調査を施行した。

2) [ホームページ、パンフレット配布、また市民公開講座・講演などを通じて、教育関係者や一般市民にアプローチし、性感染症／エイズ問題の情報を提供しつつ、その反応の調査検討]

一般市民の意識改革こそが第一という立場から、極力、一般市民・高校教育関係者との交流を行い、その中から求められる啓発情報の内容の検討を行うとともに、エイズ／性感染症への認識程度の調査を行った。

3) [高校・大学生での性意識調査と啓発効果検討]

性感染症予防や避妊の必要意識の程度を高

校生や大学生を中心に調査するとともに、ビデオ視覚啓発により自己啓発効果の検討を行った。

4) [大学生におけるコンドーム使用状況とクラミジア感染率の調査]

そして実際に大学生が具体的にコンドームをどのような割合で使用しているかの状況調査を行いつつ、クラミジア感染率との関連性の検討をした。

5) [コンドーム研究会によるコンドーム問題の検討]

コンドーム工業会のメンバーと医学関係者が加わる研究会を持ち、現在コンドーム販売数低下が問題となっていることの背景分析を中心に、現在販売されているコンドームの問題点も検討した。

(倫理面への配慮)

具体的なクラミジア感染スクリーニングにおいて、その検査結果は参加本人のみが知り得るID番号によるインターネット（コンピューターまたは携帯電話）からのアクセス・システムにて通知する。また、各種調査には、その趣旨を十分説明するとともに、得られた情報はすべて匿名にし厳重管理した。

C. 研究結果

1) [情報メディアでの啓発活動とその効果]

諸々の新聞・雑誌へのアプローチによる結果、それら情報メディアに最近、我々の性感染症流行、ことに若者への流行浸透に関するデータ紹介記事が現実が増えつつある。

また、若者向けジャーナル（本年はCawaii!）に掲載したクラミジア予防啓発記事に対する反応は、昨年度に比し急増した。こ

とに昨年度から開設した i-mode サイト「Hのおきて」へのアプローチが著しく増えたのが特徴である。携帯サイトへは毎日 100 件に上るアプローチがあったが、若者、特に 10 代の若者にとっての携帯電話を通じての情報網の重要性が強く示唆されている。

2) [ホームページや公開講座を通じての一般市民へのアプローチの反応調査]

前項に関連して、我々のホームページへのアプローチも最近増え続け、2002 年 4 月が 1 日 700 人であったものが、2003 年 3 月では 1 日 1,000 人ものアプローチになり、2002 年度だけで 34 万件を越すコンタクトがあった。

我々のホームページでの性感染症/HIV 感染に関する情報は、一般に若者に配布されている数ページ前後の簡単な情報でなく、若者に判り易く、かなり丁寧に問題点と比較的詳しくデータを織り込んでいることが、詳しい情報を求めつつある多くの若者たちの関心を集めつつあると感じている。一般的に信じられている、若者は簡単なものしか見ないという既成概念では、少し危機意識を持った若者を満足させるに必要な比較的詳しい教育的情報を与えていないことを示している。要するに、一応少し関心を持ち始めた若者への情報の流し方を現代の若者の意識要求に応える形での検討が、今後強く求められていると考えられる。

3) [高校・大学生の性意識の程度と啓発効果]

実際に調査してみると、若者の性感染症予防、また、避妊意識の薄さが目立つとともに、現実にはコンドーム使用率が、他研究でも言われているように低いことが注目される。

そのため、単に講義や話としての説明でなく、具体的な、ある程度詳しいコンドーム使用啓発

ビデオによる視覚情報提供が必要と考えられる。コンドームに慣れない高校生を対象に、ピア教育を通じてのコンドーム使用実習なども必須になっていると考えられる。そして具体的な結果として、コンドーム自己効力感の改善が有意に見られている。

4) [若者のコンドーム使用率とクラミジア感染率]

大学生 (3,176 例) の調査では無症候性のクラミジア感染率が男性 4.1%、女性 6.0%となっている。そのうち性経験のあるグループで検討すると、男子 6.9%、女子 9.9%となっている。その際コンドーム使用とクラミジア感染率の関係を検討すると、「いつも使用」で感染率は女性 4.1%：男性 2.3%、「使用しないこともあった」では女性 13.3%：男性 10.5%となっている。これは、コンドームの有効性を示すと同時に、コンドームを使用していると思っても、如何に不完全使用であるかを示しており、より正確、かつ具体的な啓発教育の必要性が求められている。

5) [コンドーム研究会によるコンドーム問題の検討]

わが国における STD/HIV 感染数の増加傾向が著しいにも拘らず、コンドーム販売数が最近徐々に減少し続けている。

これは、社会的に性の自由化・多様化がかなり一般化している現状を考えると、STD 感染予防推進という立場から非常に大きな社会問題とも言える。

現在わが国における感染症の中で、表面にあまり出ないが、最も深刻な問題をかかえ、またそのような感染例も多いエイズ/HIV 感染の動向をひそかに動かしているともいえる“コン

ドーム使用率”が低下し続けているということは、“社会的一大事”とあえて強調しておきたい。

何故コンドーム使用率が下降するかについては、研究会での検討では2つの問題ありということになった。

一つは、縷々上述したようなエイズ／性感染症への関心の低さが決定的な要因といえる。

もう一つとして、現在のコンドームの使い勝手の悪さもある。

当然のことながらペニスの大きさにも大きく個人差があり、コンドームも帽子・手袋・靴同様それなりにサイズに差がなければ、如何にゴムが延びる素材であっても使い勝手が悪いのは当然といえる。

ことにペニスは感覚的に特に敏感な部位である上に、小さければ勃起のために充血している血液を押し出してしまう。

ことに販売されているコンドームの円周長が95～110 mm（長さ170 mm）に止まるが、現在の日本人の勃起時の陰茎周の平均が110 mm（長さ90 mm）であり、分布値は95～140 mmにひろがっており、平均以上の個人にとっては使用が不快であることが少なくない。

それでは如何に使用の必要性を認識していても、つい使いたくなくなるのも理のあるところである。

最近の日本人の体格の変化に応じ、帽子・靴などのサイズの幅が広がっているのに、コンドームは旧態以然としたサイズで、使用頻度が落ちたことのみを強調しているのは、ただでさえ使用したがる若者男性への正しい対応とはいえないといえる。

コンドームのサイズの幅を増やし、またパッケージにサイズを明確にして、使用者の便を図らなければ使用率を益々下げることになると

いって過言ではない。改善の要ありというのが研究会の結論といえる。

D. 考察

一般市民の性感染症／HIV への理解・危機感の低さは想像以上のものがあり、感染への自己予防意識の低さは日本人特有の“平和呆け的安穩ムード”のみでなく、やはり、正しく、かつ比較的詳しい性感染症／HIV 情報を得ていないことによる。それは社会的な、やはり“性”問題に対する半身の構えによる曖昧姿勢が、性感染症／HIV 問題に正面から向き合わなくさせているし、コンドーム使用啓発活動への抵抗感に結びついている。今後、如何に人々の心理的抵抗をなくしつつ、感染リスクの高い若者を中心に一般市民にしっかりした具体的なコンドーム使用に関する強い実行意識を育むかが急務といえる。

我々の検討では、その意識の弱さに輪をかけるように、性感染症／HIV 感染に関する正しい医学情報が一般市民に普及していない。このことを如実に示唆しているのが図(1)であり、一般市民に対する性感染症予防、コンドーム使用啓蒙社会教育とエイズ／性感染症流行の動向とが、いかに密接な関連性があるか分かる。現在エイズ／性感染症が増加の一途をたどっていることは、やはり社会を動かす情報メディアでの警告的関連情報の絶対的な不足によるといえる。さらに、学校での性への片身の構え、それによる性教育の不十分さも、今や性生活の生活環境汚染となりつつある性感染症流行への社会的予防対応を遅らせていると言ってよい。

ある程度詳しい性感染症／HIV 感染に関する情報を一般市民にわかり易く、かつ理解し易

い形で提供しなければ、予防行動に結びつく危機感を持たせることにならない。その情報提供の仕方と内容を具体的に検討する必要がある。一番問題なのは、HIV感染が性感染症であり、しかも他の性感染症が大流行していて、それとHIV感染が著しく連動して広がり始めていることへの理解が一般市民に浸透していない。

そのため、ただ教育啓発するだけでなく、その効果と実際に具体的な無症候性の性感染症（クラミジアなど）の感染率のチェックを並行して行わなければならない。知識が行動に、そして具体的な感染予防に結びついているかという、すべての啓発活動をはっきりとした具体的な性感染症感染率との関係にまで進めて検討しなければならない。それなくして啓発活動の成果を云々することは危険であることが、我々の研究で浮かび上がって来た。

<a.知識－b.理解－c.行動－d.予防効果>の流れの中で c.－d.の所で如何に成果を上げることが、近い将来予想されるわが国での“性感染症としてのエイズ/HIV”流行抑制につながると考えられる。ことに〔c. 行動〕としての、とにかく正しくコンドームを常に使用する（絶対感染の恐れのない場合を除いて）強い意思を植えつけねばならない。

E. 結論

今までの多くの啓発活動研究の中では、知識の deposition 及び予防の啓発の検討の域を出ず、我々のように HIV と同じ無症候性性感染症であるクラミジア感染の具体的な感染率を判定目標としつつ、具体的に実行された性感染症/HIV 感染予防啓発活動がどの程度成果を上げ得るかの研究分析を行うことはなかった。

その点、我々は医学の立場からそのクラミジア感染の有無を最終検討対象としつつ、性感染

症/HIV 啓発情報活動を社会的・教育的立場から広く分析検討を行った。研究班活動の開始時は暗中模索であったが、徐々に性感染症の自己スクリーニング検査に結びつく啓発活動システムの方向が出つつあり、この方向で研究を進めれば、最も具体的な性感染症としての HIV 感染予防啓発活動につながると信じている。

今後は、単なるお話としての教育啓発でなく、クラミジア感染という最も流行していて、HIV と同様、無防備での性交渉でうつされる性感染症の実際の感染の有無をチェックしながらの、“実際的なコンドーム使用啓蒙教育”を行いつつ具体的な予防キャンペーンを行わねばならない。具体性のない、お話のみの教育啓発活動では市民への説得力・教育上の迫力が低く、性感染症としての HIV 流行予防に殆どなっていないというのが、我々の研究活動の結論と言える。そして性感染症としての代表で、大流行しているクラミジア感染の予防が十分行えない限り、そして実際にクラミジア流行を抑え込んでいかなない限り、HIV 予防はできないと断言できる。

要するに、具体的なクラミジア予防啓発活動に、将来のエイズ大流行が予防可能かどうかがかかっているといって過言ではない。簡単にチェック可能で、検査も比較的抵抗のないクラミジア予防のスクリーニングができなくて、HIV 予防は全く不可能であると考えている。そして実のあるコンドーム使用啓蒙キャンペーンを国をあげて情報メディアを総動員して行うべきではないだろうか。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

- (1) 熊本悦明：この性感染症流行の現状を直視して欲しい. 日本性感染症学会誌、13 (1) ; 14-15, 2002.
- (2) 熊本悦明、他：日本における性感染症 (STD) サーベイランス—2001 年度調査報告—. 日本性感染症学会誌、13 (2) ; 147-167, 2002.
- (3) 熊本悦明：正しい性教育には正しいデータを、保健体育ジャーナル第 63 号 ; 1-2、2002.
- (4) 熊本悦明：性のあるところに感染あり性感染症／エイズは増えている、メディアコピア第 43 号 ; 21-35, 2002.
- (5) 熊本悦明：中学・高校における性教育を見直すときが来ている—生徒たちの性の実態を直視しなければならない—、保健体育ジャーナル第 65 号 ; 5-12, 2003.
- (6) 齋藤益子、他：膣分泌物自己採取法による *Chlamydia trachomatis* のスクリーニングと性行動との関連性—看護学生を対象として—. 日性感染症会誌、13 (1) : 96-103, 2002.
- (7) 蛭名紀子、他：生理用ナプキンを用いての自己採取による *Chlamydia trachomatis* 検査法の有用性について. 日性感染症会誌、13 (1) : 104-107, 2002
- (8) 熊本悦明、他：最近の若者の性や AV の問題について—俳優加藤鷹との炉辺談話. 性と健康, No.2 : 21-27, 2002

2. 学会発表

- (1) 熊本悦明, 男性の思春期, 第 21 回日本思春期学会, 特別講演, 2002

年 8 月 (金沢市)

- (2) 熊本悦明, Sexually transmitted diseases surveillance 1998~2001 in Japan, 第 15 回日本性感染症学会学術大会, 特別報告, 2002 年 12 月 (福岡市)
- (3) 熊本悦明, STD in elderly male, アジア aging male 学会講演, 2003 年 3 月 (台北市)
- (4) 熊本悦明, 「性の影としての性感染症／望まざる妊娠の予防をめぐる」, 日本助産学会, 市民公開講演会, 2003 年 3 月 (沖縄県)

3. 成果発表会

- (1) STD/HIV 市民公開講座「若者と性の健康」, 「若い人たちに大
- (2) 流行している性感染症」, 2002 年 11 月 (鹿児島市)
- (3) STD/HIV 市民講座「若者と性の健康」, 「10 歳台後半女性の性の影」, 2003 年 3 月 (福井市)

4. その他の講演

- (1) 茨城県「母子保健指導者研修会」, 「若者に広がる性感染症を考える」, 2002 年 7 月 (水戸市)
- (2) 「釧路思春期研究会公開講座」, 2002 年 10 月 (釧路市)
- (3) 市民公開講座“いのちを育むため愛するために—若者と性の健康—”, 「若者に大流行している性感染症」, 2002 年 11 月 (浦安市)
- (4) 国際学院高校性教育講座, 2002 年 12 月 (埼玉県)
- (5) 第 72 回感染防止研究会講演, 「この

性感染症の大流行を放置しておいて良いのであろうか?」, 2003年2月(東京)

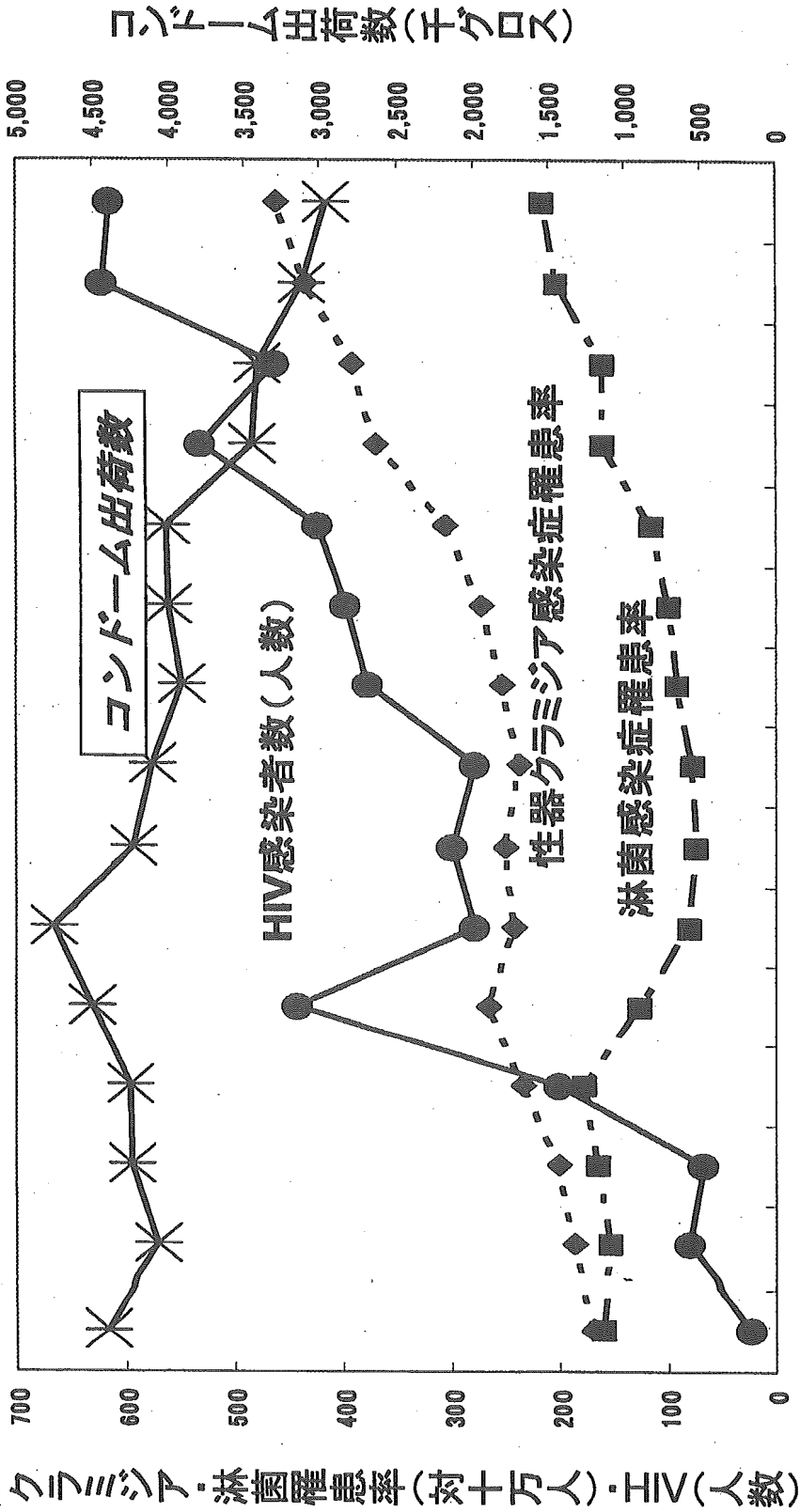
- (6) 女性のための健康フォーラム講演,
「序にかえて」‘性感染症としてのHPV感染’の流行をめぐって, 2003年2月(東京)

H. 知的財産権の出願・登録状況

- | | |
|-----------|----|
| 1. 特許取得 | なし |
| 2. 実用新案登録 | なし |
| 3. その他 | なし |

図(1)

HIV感染者数・性器クラミジア・淋菌感染症罹患率 とコンドーム出荷数の年次推移 (熊本県)



HIVについては厚労省エイズ発生動向年報:2003年、STDについては熊本悦明:2003年、
コンドーム出荷数は業事工業生産動態統計による

検査台に乗りたくても乗らなくても検査できるよ



検査台に
乗らなくても
検査できるよ

「検査台に乗るのがイヤ！」って言う方もたくさんいるはずだけど最近では検査台に座るかわりに検査方法もあるし、女医さんも慣れていて検査しなくても大丈夫。検査の結果、クラミジアに感染してるとわかったらみんなが口を揃えて言うけど、クラミジアは早期に発見できれば薬だけで完全に治っちゃうんだよ。だから検査が遅れると超高い確率で不妊症に陥っちゃうかもしれないんだよ。かかってしまった場合の早期発見がこの病気のキーポイントになるワケ。だから感染している疑いがあるコは恥ずかしがらずに早く病院へGO!

「クラミジア」は性感染症って聞いて、Hやフェラなどで感染する病気なんだ。その正体は男のコの尿道と女のコの子宮頸管で増える細菌。男女に関係なく相手がクラミジアを持っていれば1度Hしただけでも感染しちゃうんだって。特に、ここ10年で女のコの感染者が増えているの(右ページのグラフを見てね)。今や、その数は10代後半だと男の

コの4~8倍で、Hしたことある女のコでは約10人に1人はクラミジアに感染しているんだ。ちなみに経験豊富なコだったら4~5人に1人が感染してるんだって。そのほとんどがHで感染したものだ。しかもクラミジアは女のコの自覚症状がほとんどないっていうから、感染してるのに気づかないパターンも多いコワイ病気なんデス。

女のコのクラミジアは症状が出にくい!

クラミジアのいちばんコワイところは女のコの自覚症状がほとんどないってこと。クラミジアに感染すると男のコの2人に1人は軽い尿道炎を起こしたりするんだけど、女のコで症状が出るのは5人に1人。しかもほんのチョットおりものが増えたり、おんかが少しだけ痛かったりってだけの軽いものがほとんど。だから自分でクラミジア感染に気づくコは少ないんだ。それと、女のコの場合クラミジアにかかると将来赤ちゃんが産めない体になってしまう危険が。妊娠できても、流産や早産の可能性も出てくるし、なんとエイズに感染する確率も3~5倍/っていうことはやっぱり病院に行くしかないよね。

早期発見なら薬で治る

クラミジアは早期に発見できれば薬だけで治っちゃうんだ。ちなみにその薬はクラリスロマイシンっていう抗生物質で、きちんと1~2週間飲み続ければ十分な効果があるの。ちなみに自分が治っても彼が感染していたら、またうつっちゃう可能性大だし、元も子もないよね? だからもう感染しないためには確やりのパートナーも病院に連れて行くことが大事。一緒にいけばコワイくないかも?

友達のススメで病院に行ってみた

N.Yさん(18才)
病院に行く前はまさか自分がクラミジアにかかってるなんて思わなかったんだ。友達がガソリンがこぼれたって話をしてたから、もしかしら〜なんて、なんとなく行ってみたいので、生いながらお尻を洗いたら、結果「クラミジア」ってことでお尻を洗っただけ。でもお尻はいいよ、おんものが少なくなって治ったよ。だから今はちゃんと予防はしてるよ。

だからゴムは絶対つけて!

知ってると思うけど、コンドームは避妊のためだけに使うものじゃないんだよ。クラミジアなどの性感染症予防にだってゴムは絶対必要。ピルでも避妊はできるけど、クラミジアを防ぐことはできないからね。クラミジアにかかるとコトは無防備にHしてらるってコト! そんなHじゃ下のような恐ろしいことになりかねないからね。愛だけじゃ病気は防げないし幸せにもなれないってコトを真剣に考えてほしい。

くわしい情報&パンフが欲しいならココへ!

- 「ちょっと心当たりか……」「不安になっちゃった」なーんてコにクラミジアについてわかりやすくまとめた冊いをおまけをプレゼント!
- 住所、氏名、性別、年齢、職業を書いて申し込んでね。
- 郵送で(官製ハガキでね)
〒160-0016 東京都新宿区信濃町35番地 信濃町煉瓦館4F
メディカス㈱内「CHLAキャンペーン事務局」まで
- インターネットから <http://www.chla.jp/>
- ケイタイから <http://www.chla.jp/>

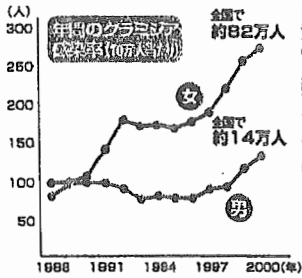
クラミジアはこんなコワイ問題を引き起こしちゃう!

不妊症 ほとんどの場合、自覚症状がないまま卵管を過って子宮に入り込み、人によってはかなりのスピードで骨盤にまで行っちゃうクラミジア。そして感染した卵管が閉じちゃって不妊症におちいることも。	子宮外妊娠 たとえ妊娠できたとしても、クラミジアに感染していると子宮外妊娠が起きたり、流産や早産したりしがちなんだ。しかも出産しても赤ちゃんにうつっちゃう可能性もあるんだって。コワイ!	エイズ クラミジアに感染した性別は荒れているからエイズウイルスがとりつきやすいんだ。それは感染していないコのと3~5倍/クラミジアが原因でエイズになるコトも十分考えられるよ。
--	--	---

流行に無感でもクラミジア流行
には乗っかかっている!

愛もあっても真夏のHは

女のこのクラミジア感染が
こんなに増えている!



※無症状のこも含めると全体で100万人も!

- こかなどきは病室へ
- 何人かの人とHした
- Hする時痛みや痒み
- 痛いことがある
- Hすると痛みがある
- おりものが前より多
- くなった気がする
- 膀胱炎の症状がある
- コンドームを使わない

彼とのLOVEがたつぷりつまったH
もと限りの楽しいH...
な形のSEXがあるけど、楽しいコト
には必ずリスクがつくモノ。それを
SEXにたとえると性感染症ってコト
になるよね? その中でも特に最近
流行ってるのがクラミジア。なんと
Hしたことある15~19才の女のこは
10人に1人の割合で感染してるんだ
って。不安になったこはとりあえず
コレを読んでみて!

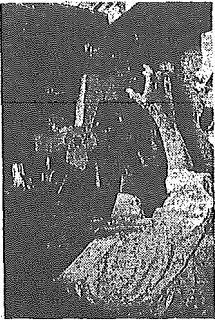
こんなに危険!

※不安なイメージで、本心を
の隠れもありません。

撮影/深谷泰直(aura) 取材・構成・文/MANBOW

主な性感染症

Table with columns: 病名 (Disease Name), 原因 (Cause), 症状 (Symptoms). Rows include 淋菌性感染症 (淋病), 性器クラミジア感染症, 性器ヘルペス感染症, 尖(せん)形コンジローム, and エイズ.



患者の体液に菌がいなければ、調べる診医師

性感染症若年層に急増

うつされやすけ悪循環

「最近、おりのが増え、にやいなや広がっています。相手もかかれば、こちらもかかるといいます。二十代の女性...」

相談件数は四月以降毎月四十件以上と急増。十歳代から二十歳代前半の女性が増え、パートナーにもうつる恐れがあるという。

性感染症は性行為を通じて、病原体がうつることによる感染経路。性器クラミジア感染症やりん病など、細菌によるものや、性器ヘルペスや尖(せん)形コ...

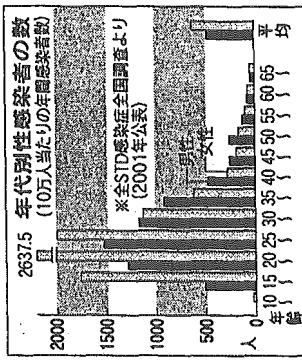
性感染症(STI)が著者の間で増えている。特に女性の感染が目立つ。不特定多数の相手と関係をもつのに加えて、予防知識が乏しいために、うつりやすさが増えている。

シロームのよほどウイルス、にやいなや広がっています。十歳代半ばから急増。十歳代から二十歳代の若年層が増えている。東京都予防医学協会は...

性病の多さは、性器の接触や体液を通じて感染し、男性では尿道、女性では子宮頸(び)の管などに炎症を起す。放置すると重症化する。女性では炎症が進むと子宮から卵管、卵巣に及び、排卵障害などによる不妊の原因となる。

症状出ぬまま放置 エイズの温床にも

無症状で検査を継続的に受ける人は少ない。「特に若い女性の検査受診率が低い」と江東病院(東京)の顧問と性感染症に詳しい松田勲医師は語る。気が付かないうちに性交渉を繰り返して感染を広げている。さらに恐ろしいのはクラミジア感染症やりん病などの性感染症を患っているのに、エイズウイルスの感染する危険が増すことだ。性感染症による炎症性病にはリンパ球が集まる。エイズウ...



年代別性感染症の数 (10万人当たりの年間感染人数) ※全STI感染症全国調査より (2001年公報)

が強く、死亡率も高い。札幌医科大学の雅也教授は「性感染症の広がりは、若者の間で不特定多数と関係する傾向が強まっている一方、病気の知識や危機意識が薄れていると指摘する。避妊薬の使用も必要。国をあげた啓発が急務」と語る。

数年後に大流行の兆し。どう防ぐか。明日は世界エイズデー。

若者を襲うHIV

怖さ知らず無防備

変わる感染症

冬に備えて

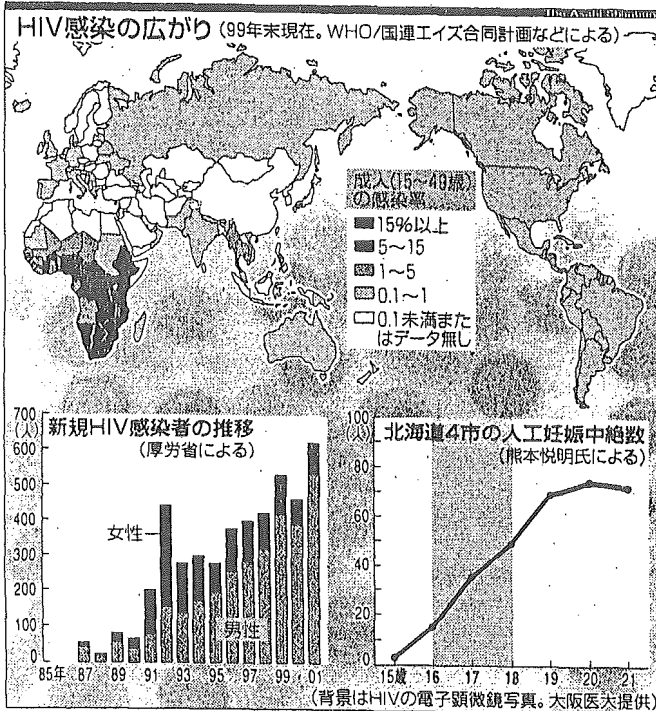
下

大阪・キタの繁華街の雑居ビルにある大國診療所は、月に400人を超す性感染症患者がもつて来る近畿でも著名な性病科診療所だ。ここがHIV(エイズ)ウイルス感染がわかった人は99年から今年10月までに19人いた。うち20代が12人だった。

「陽性でしたわ」「そいつは……」

ある程度は覚悟しているのか、大半が検査結果を液々と受け止める、と大國剛院長(いづ)。

日本のHIV新規感染者(血液製剤由来を除く)は年々増え、01年には621人と過去最高になった。しかもその3分の1を占める



のが20代だ。世界ではまだ低流行国に留まったが、先進国で感染者が増え続けているのは日本だけだ。

HIVだけではない。この5年、性感染症にかかる若者が増え、10代の人工妊娠中絶数も急増している。「国連エイズ合同計画」は今年の報告書で、日本では若者の性行動が大きく変化し、HIV感染の危険が増している」と指摘した。

阪病院長は「死ぬ病気が増えている」と話す。

「今のままだと2010年には若者を中心に流行が起る。国内のHIV感染者は5万人を超すでしょう」と警告する。

エイズの死亡率は、数種類の薬を組み合わせて飲む多剤併用療法の普及で先進国で大きく下がった。治療の拠点病院の一つ、国立大阪病院長は「死ぬ病気が増えている」と話す。

世界保健機関(WHO)の前専門官、玉城英彦・北海道大教授は「いま一番有効な予防方法は、『知識』です」と話す。

その知識や行動は危う

らじりへりきめ病気に「なりました」と話す。

しかし、薬には吐き気や下痢、肝障害など副作用もある。症状が出ないからと飲まなかったり、飲み忘れたりする。ウイルスが耐性化する。大変な病気であることに変わりない。

「防衛の基本であるコンドームが使われなくなりつつある。厚生労働省の統計によると、80年に7億3700万個あった国内出荷数が00年は5億個を切った。近畿のある高校の調査では、95年は性経験がある生徒は1割で、うち74%がコンドームを使っていたが、00年には3割が性経験があるにもかかわらず、使用率は50%に下がっていた。

「性の健康医学財団」の熊本悦明会頭が、札幌市など北海道内の4市で、今年4月の若者の人工妊娠中絶数を調べたら、16、18歳で急上昇していたという。熊本さんは「無免許で暴走運転をしている状態です」と例える。

「子どもと性を取り巻く環境はHIVの登場以降、大きく変わりました。子どもたちにきちんと教え、大流行を未然に防ぐのは私たち大人の責任なのです」(この連載は、中村通子

詳しい情報は

HIVの検査・相談マップ (<http://www.hivkensa.com>) 地域や時間、匿名可能ななど自分の条件に合う窓口を探せる。

HIVリンク集 (<http://allabout.co.jp/health/hiv/>) 基礎知識からコンドームの使い方、病院リスト、支援団体、雇用、国際情報など多数のホームページを網羅。

「エイズ・性感染症とその予防」ドラマ仕立ての高校生向け性教育ビデオ。大塚啓吉監、万田正

1年生の平均点は33点だった。コンドームの使い方

「子どもと性を取り巻く環境はHIVの登場以降、大きく変わりました。子どもたちにきちんと教え、大流行を未然に防ぐのは私たち大人の責任なのです」(この連載は、中村通子

今年、コンドームやピルを説明した中学生向けの性教育冊子が「いきすぎだ」と国会などで批判され、一部自治体で回収された。不原講師らの調査や授業に対して「子どもをそのかす」という苦情がくる。

木原講師はこう話す。

「子どもと性を取り巻く環境はHIVの登場以降、大きく変わりました。子どもたちにきちんと教え、大流行を未然に防ぐのは私たち大人の責任なのです」(この連載は、中村通子

性感染症「クラミジア」が若い女性で増え、高校生では卒業時は入学時の約六倍まで激増することが、厚生労働省研究班(班長・熊本悦明・札幌医大名誉教授)の調査でわかった。クラミジアに感染すると、エイズ感染の危険性が約五倍

クラミジア 女高生に激増

高まり、不妊の恐れもあるため、研究班では「コンドーム使用など、予防教育を中学三年、高校一年で徹底する必要がある」としている。
研究班は「今年、七一九道府県で、性感染症の患者が受診する医療機関に協力を依

卒業時、入学時の6倍

この患者数を分析すると、女性は十四歳でゼロなのが、十五歳になると十万人あたり年間二百三十六人となり、十歳上がるごとに一・五二六倍に増加、十八歳では同千四百四十八人に上った。男性は女性より一年遅れで、十六・十九歳に急増していた。
従来の国の調査は五歳刻みの統計が多く、年齢ごとの患者の発生状況がわかったのは初めて。無防備な性交渉などが背景にあるとみられる。
*厚労省調査
「クラミジア」大きき〇・三兆ほどの微生物で細胞内に寄生して増殖、結膜炎や肺炎を起す仲間もいる。性感染すると女性では子宮頸(けい)管炎、男性では尿道炎を起し、排尿の時などにかゆみや痛みを伴う場合がある。

クラミジア感染 若い女性に拡大

厚労省の昨年調査

性行為でうつる性感染症が若い女性を中心に年々増加、クラミジア感染症は、症状の出ない無症候性も含めると推定で十九歳女性の十三人に一人が罹患(りかん)していることが、昨年の厚生労働省研究班の調査で分かった。

医大名誉教授が発表した。

研究班は一九九八年から、産婦人科や泌尿器科の医療機関にアンケート用紙を送り調査を実施。昨年は北海道から福岡まで九道府県の計約一万二千施設を対象にした。その結果、調べた八種の性感染症の十万人当たり罹患率は全体で約六百三十三(約〇・六%)。性別、年代別では、二十代前半の女性が最も高く、三十八人に一人の割合だった。

「高校生の感染急増」

性感染症 性教育の充実訴え 福岡市

日本性感染症学会の第15回学術大会が7日、福岡市で始まった。クラミジアなど性感染症の増加と低年齢化が大きな問題になっており、まん延防止がテーマ。

この日は特別報告で、厚生労働省性感染症サ―ベイランス研究班の熊本

悦明班長が、98～01年に全国9道府県で行った調査結果を基に「今や歓楽街の病気ではない。10代後半から20代前半の女性に多く、特に高校生に感染者が急増している。この年代の性教育の充実が必要だ」と訴えた。

【西川拓】

クラミジア感染 19歳女性13人に1人

性行為でうつる性感染症が若い女性を中心に年々増加、クラミジア感染症は、症状の出ない無症候性も含めると推定で十九歳女性の十三人に一人が罹患していることが、

厚労省研究班が推定

研究班は一九九八年から、産婦人科や泌尿器科の医療機関にアンケート用紙を送り調査を実施。昨年は北海道から福岡まで九道府県の計約一万二千施設を対象にした。

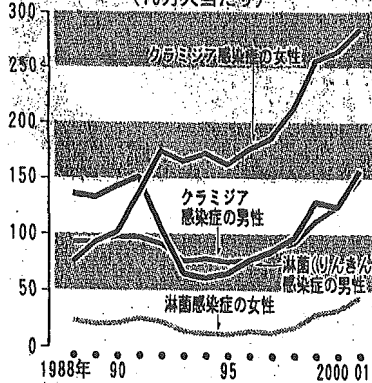
その結果、調べた八種の性感染症の十万人当たり罹患率は全体で約六百三十(約0.6%)。性別、年代別では、二十代前半の女性が最も高く、

全国で110万人 「日本だけ異常傾向」

三十八人に一人の割合で、症候の女性が有症例の四倍あるとされ、それも合わせて昨年の推定感染数ア感染症が八種の中で最も多く約36%。九八年以前の旧厚生省の調査も参照すると、男女とも九六年から急増。昨年は九六年に比べ約一・六十二倍になった。約16%の淋菌感染症も同様に増加している。

クラミジア感染は、無

主な性感染症の罹患(りかん)率 (10万人当たり)



熊本を管轄は「クラミジア感染は不妊症など療先進国の中で日本だけにつながら、エイズにも感染しやすくなる。拡大は公衆衛生上の大問題だ」と指摘している。

だ。性感染症の急増は医療先進国の中で日本だけ

性感染症

10代まん延

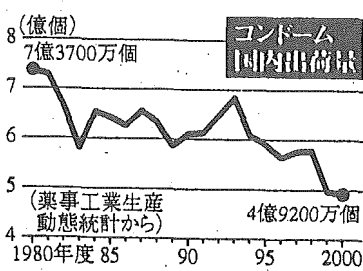
予防教育を徹底し エイズ流行防げ

十代の若者に性感染症がまん延している。エイズの大流行を防ぐためにも、中高生への予防教育を徹底する必要がある。

科学部 増満 浩志

性感染症が、「性生活の乱れた一部の人の問題」という考えは誤りで、厚生労働省研究班(班長＝熊本悦明・札幌医大名誉教授)がはっきり示した。全国調査で、性器クラミジア患者が人口十万人当たり年間二百二十四人も発生していることがわかったのだ。これは新生児まで含めた平均値で、十八～十九歳の女性では同約千五百人に跳ね上がる。

女性に感染者の20%しか症状が表に出ないので、実際にはこの五倍、十五人に一人が感染している計算になる。まん延の最大の原因は、性行動の自由化・若年化が進む一方で、コンドームを使わない無防備な性行為が増えたことだ。同省の別の研究班で国民の性行動を調べた木原正博・京大教授(国際保健学)は「二十五歳未満では、七割が十代で性経験があり、その相手が五人以上という人も40%近い。しかも、相手が多い人ほど、コンドームの使用率が低く、その出荷数も激減している」と指摘する。



の危険が迫っている」と危機感を強めている。エイズウイルス(HIV)もクラミジアと同じく無症状で長期間経過し、その間に感染が拡大しやすいからだ。しかもクラミジア感染者は、飛沫した性器粘膜がウイルスの侵入口になるため、健康な人の約五倍もHIVに感染しやすい。

文部科学省は、最新の学習指導要領で中高生の保健体育に性感染症の内容を盛り込んだ。しかし、予防に最も効果的な「コンドームの使い方」となると「地域ごとの判断。教えない所もある」(同省学校健康教育課)のが実情。保守的な父母からの反発などが原因らしい。「踏み込んだ性教育は、子供たちの性行為への関心を無用に高める」と懸念を懸念する声は長年、予防教育の壁となってきた。しかし高校で予防教育の授業を行った経験を持つ木原雅子・広島大講師は、「授業ではコンドームの使い方も教えたが、二か月後に影響を調べた結果、性行動の活発化には結

びついていなかった」と語る。それはかなり、性行動が活発化する前に教えないと、効果が薄いこともわかってきた。授業の二か月後、すでに性体験のある生徒にコンドーム使用の有無を尋ねたところ、「使うようになった」との回答が増えたのは一年生だけだった。二年生は「使おうと思う」という意識は高まったものの、行動には結びついておらず、三年生は意識すら変わっていなかった。

日本のHIV感染者は、ほかの先進国にない急増ぶりを示し、今年七月九月の新たな感染者は過去最高の百八十四人に上った。熊本氏は「単に『コンドームを使え』ではなく、模型で実演するなど、使い方を具体的に教えるべきだ」と訴える。踏み込んだ予防教育に取り組みべき時期になっている。